

# 清流

題字：芳野 充

平成29年5月30日  
第5号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 言葉がもつ大きな力

清流の第3号で、思いやりの具体的行動として『日常の心がけ』というものを紹介させていただきました。今号はその二番目にある「正しく、やさしい言葉づかい」について思うところをお伝えさせていただきたいと思えます。

「正しくやさしい言葉づかい」の「正しく」とは、話す内容が理路整然として筋がとおっているということではなく、相手に勇気や元気をあたえる、あるいは気持ちと和ませる言葉のこと。いくらあやまりのない正しい内容だとしても、相手を気落ちさせたり、怒らせてしまう言葉づかいではないということ。やさしい」とはその口調をさすのですが、発する語気がやわらかく、あたたかな言い方であるということです。

なにもそこまで気をつかわなくてもいいじゃないか、と最初は思っておりましたが、自宅でニュースをみていたときに「良くも悪くも言葉にはとても大きな力があるんだな」と思ったことがあります。それは青森県の中学一年生の男子生徒が同級生からいじめをうけ自殺したというものでした。アナウンサーは少年が命を絶つまえに遺したノートの最後に書かれていた一言言われてイヤだった言葉が「人間のクズ」だったと報じていました。そのときわたしは言葉は目には見えないけれど命をうばう凶器にもなり得るんだ。しかし逆に言葉ひとつで相手に元氣や勇気を与えることができるのではないかと思ったときに、言葉がもつ大きな力を感しました。

話ばかり、わが家には小学五年生の息子と、小学三年生の娘がいます。ふたりが宿題をする際に勉強をみることにあります。そのとき「なんでこんな簡単なことも分からんのか！」と怒鳴りつけたくなる気持ちひっきりなしに押しよせてきますが、そのときはグツとこらえ、分かるまでくだけて説明し、問題が解けたときには「すごい！できたやん！」とほめると気をよくして自分から問題をときはじめることがあります。子どもたちに勉強を教えるのはとても根気を必要としますが、正しくやさしい言葉づかいを意識することでお互いに成長できるのではないかと感じます。

とは言え、良くない言動をとったときにはもちろん叱ります。ですがその際には感情的にならず、なるべくおだやかにさとすように言葉をかけます。そうすることで結果的に子どもたちはわたしの言わんとすることを理解してくれれます。正しくやさしい言葉をおおくつかうことで、実はわたし自身にもそれは還ってくるような気がしています。

加来 寛

